

犯罪被害者の被害感情低減のための方法

—大学生の被害内容と精神的被害に対する対応と対処—

○上市秀雄¹ 星野夏那²

¹筑波大学大学院システム情報工学研究科

²筑波大学社会工学類

Email:ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

本研究は平成20年度科学研究費補助金(課題番号:15530398)研究基盤(C)(2)による助成を受けた。

背景

2

- **犯罪情勢**(法務省法務総合研究所, 2006)
 - 平成17年度刑法犯認知件数:3,125,216件
 - 犯罪発生率:人口10万人当たり2446.2件
 - ・ **犯罪被害にあう確率:年間約40人に1人**
 - 平成14年度をピークに減少傾向にあるものの、犯罪被害にあう可能性はかなり高い

近年の犯罪情勢悪化を背景に、被害者に対する理解と支援の必要性がひろく認識されるようになってきた

先行研究

3

- **犯罪被害者のケアと支援方法** (大和田, 2003; 小西1996)
 - 被害者の話にしっと耳を傾けることにより, ストレスが軽減
 - 罪責感を軽減させる言葉をかける
 - ・ 自分を責めなくていい
- **ストレス対処** (Lazarus & Folkman, 1991)
 - **問題焦点型**: ストレスの原因を突き止め, その問題に対処する
 - **情動焦点型**: 気晴らしや気分転換などで, 不快な感情を解消
- **後悔対処** (Ueichi & Oishi, 2008; 上市・楠見, 2004)
 - **合理化(積極的)**: 現状を受け入れ, 今後の役に立つと考える
 - **行動的対処(積極的)**: 現状を変えるための持続的な努力
 - **何もしない(消極的)**: 忘れようとする。考えないようにする

問題点

4

- **主に死別やトラウマになるような重大な犯罪被害者を対象としている**
 - 我々が普段あうような犯罪被害については十分に検討されていない
- **ストレスやネガティブな感情の原因によって, 効果的な対処法が異なる可能性がある**
 - 犯罪被害者が感じるストレスやネガティブな感情に対する対処法が不明

目的

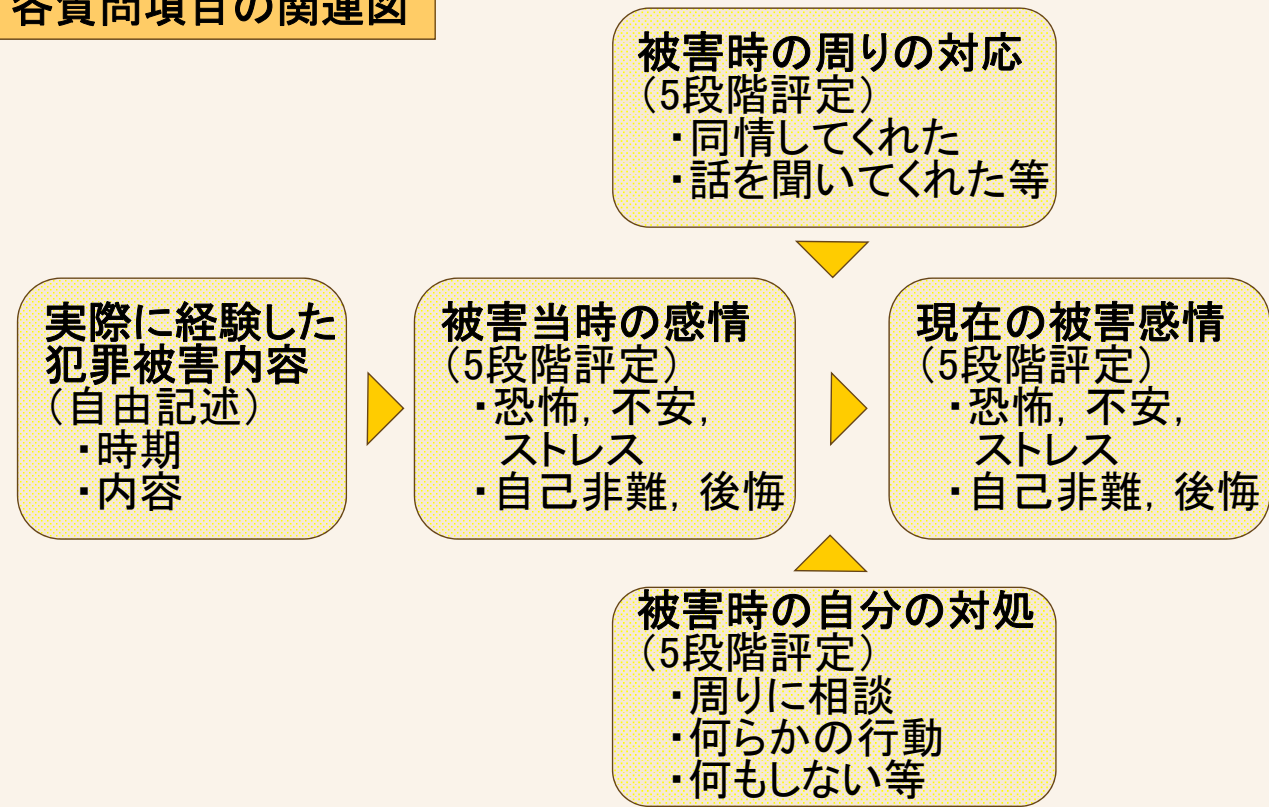
- 1: 普段あうような犯罪被害を明らかにした上で,
 - 2: 犯罪被害者の被害感情を低減する要因
 - 周りの人の対応が被害感情の低減に及ぼす影響
 - 自分の対処が被害感情の低減に及ぼす影響
- を明らかにし, 有用な被害者支援,
被害感情対処法を検討する

方法

- 調査対象: 大学生104人(男性54人, 女性50人)
- 調査時期: 2008年11月に質問冊子を配布回収

質問項目

各質問項目の関連図



● 今までで最もショックだった犯罪被害の内容

- 時期および被害内容(自由記述)
- 警察への届出の有無(あり or なし)

● 被害当時の気持ち(5段階評定)

- 恐怖心・不安感・ストレス
 - ・ どうすればいいかわからず, 不安な気持ちになった
 - ・ 恐怖を感じた
 - ・ まさか自分が被害にあうとは思わなかった
 - ・ ストレス(精神的ショック)を感じた
- 自己非難, 後悔
 - ・ 自分自身に対して腹立たしく思った
 - ・ 適切な行動をしておけばよかったと後悔した
 - ・ 被害にあった原因は自分にあると自分を責めた
 - ・ 自分が気をつけていれば, その被害を避けられた

● 被害当時の周りの対応(5段階評定)

- 家族・知人たちは、自分の話をきちんと聞いてくれた
- 家族・知人たちは、同情して慰めてくれた
- 家族・知人たちは、自分の気持ちを理解してくれた
- 家族・知人たちは、自分にも非があったなど、責めるようなことは言わないでくれた
- 家族・知人たちは、被害のことを無理やり聞きだすようなことはしないでくれた
- 被害現場にいた人たちが協力して、犯人を捕まえようとしてくれた
- 家族・知人たちが協力して、犯人を捕まえようとしてくれた
- 犯罪被害にあったときに、家族・知人たちは、精神的サポートをしてくれた

● **被害当時の自分の対処** (自分自身への対処: 5段階評定)

- 周りの人に相談した
- 被害にあったことを忘れようとした
- 被害にあったことを思い出すような事をさげ考えないようにした
- 被害にあったという事実は変わらないので、何をしても無駄だと思った
- 被害のことを忘れるために、気分転換になるようなことをした
- 時間が解決してくれると思ったので、時の流れに任せた
- 自分の感情をあらわにした
- 誰かに聞いてもらうことで気持ちの整理をつけようとした
- 同じような被害にあった人に相談した犯人を憎いと思った
- ニュースや新聞でその事件のことが取り上げられている時、対策法をきちんと見るようにした
- 家族や友達と防犯対策や被害にあわないためにはどうすればよいか話し合った
- 防犯ベルを持ったり、防犯対策グッズを設置した
- 警察署の電話番号を調べ、何かあったら通報できるようにした
- 何かあったときに、すぐに相談できる人を作った
- 何もしたくなかった(何もする気がおきなかった)

● **被害当時の自分の対処** (犯人への対処: 5段階評定)

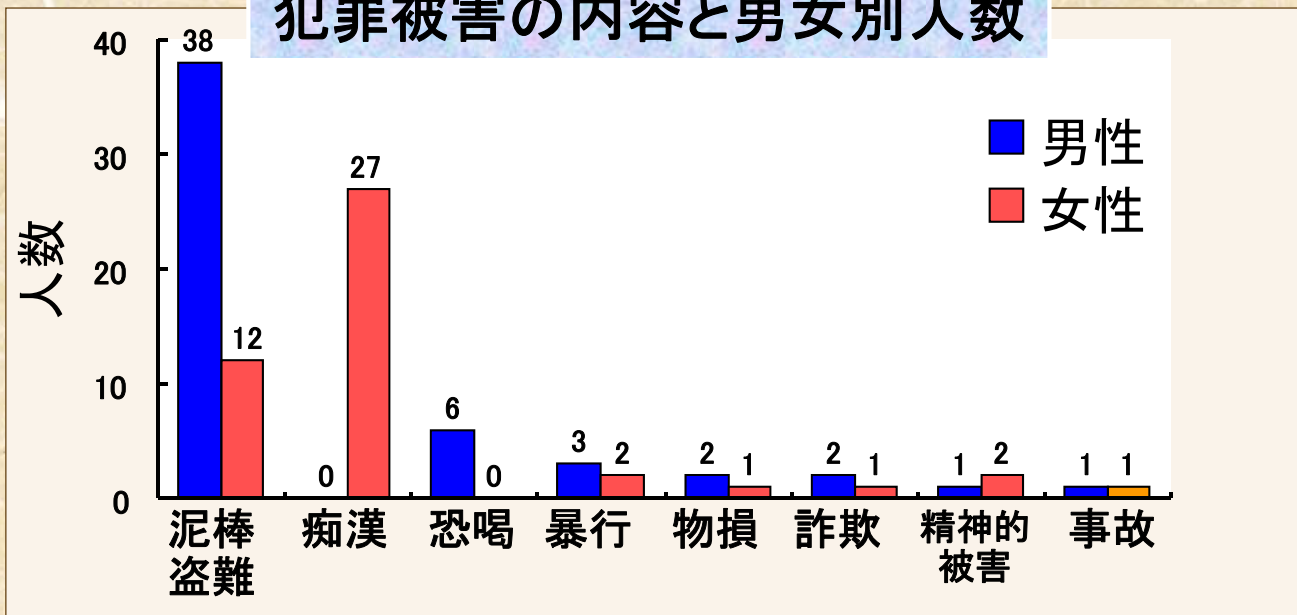
- 被害にあったことに対して、何か行動をおこさなくてはと思った
- 自分で犯人を捕まえようと思った
- 周りの人にも協力してもらい、犯人を捕まえようと思った
- 犯人に対して抵抗しようと思った
- 犯人に逆上されたかもしれないので、何もしなかった

● **今現在の気持ち** (5段階評定)

- 恐怖心・不安感・ストレス
 - ・ どうすればいいかわからず、不安な気持ちになった
 - ・ 恐怖を感じた
 - ・ まさか自分が被害にあうとは思わなかった
 - ・ ストレス(精神的ショック)を感じた
- 自己非難, 後悔
 - ・ 自分自身に対して腹立たしく思った
 - ・ 適切な行動をしておけばよかったと後悔した
 - ・ 被害にあった原因は自分にあると自分を責めた
 - ・ 自分が気をつけていれば、その被害を避けられた

結果と考察

犯罪被害の内容と男女別人数



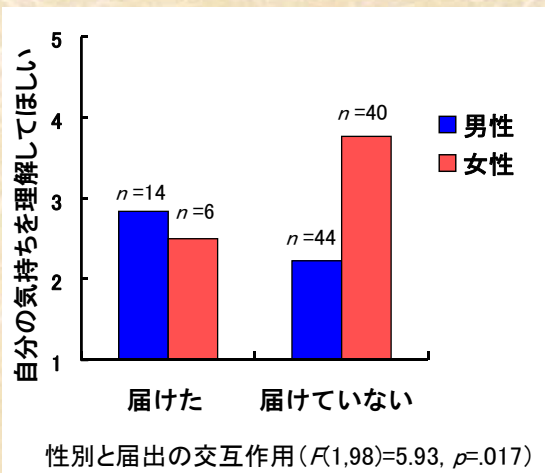
男性の最もショックだった被害: 泥棒・盗難

主に金銭的被害

女性の最もショックだった被害: 痴漢

主に身体的被害

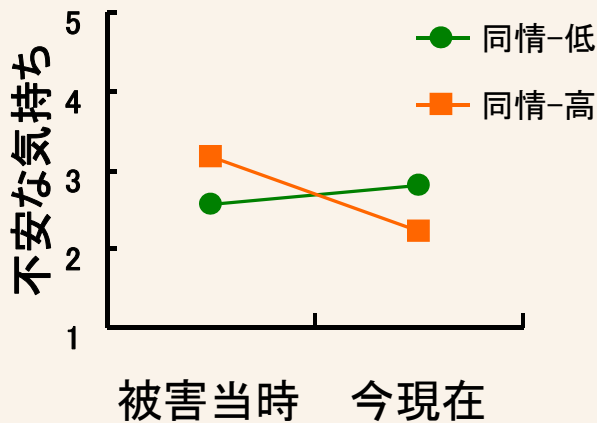
警察への届出と性別に及ぼす影響



- 被害者の80%は、警察に被害届をださない傾向あり
- 女性で、警察に届け出ないひとは、自分の気持ちを理解してほしいと思う人傾向が高い

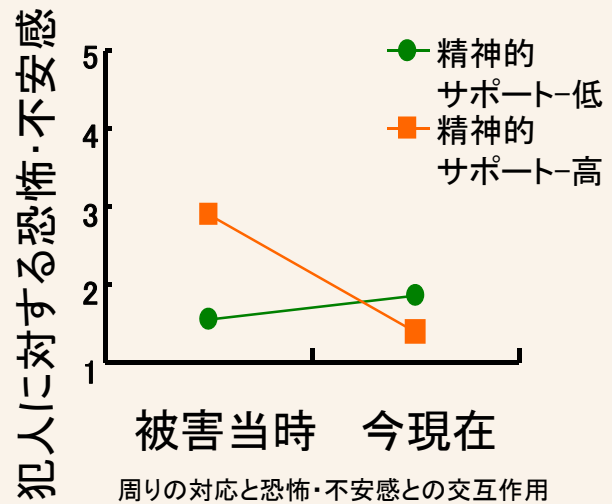
警察がきちんと話を聞いてくれるかどうか心配している可能性あり

泥棒・盗難



被害当時 今現在

周りの対応と不安感との交互作用
($F(1,46)=5.139, p=.028$)



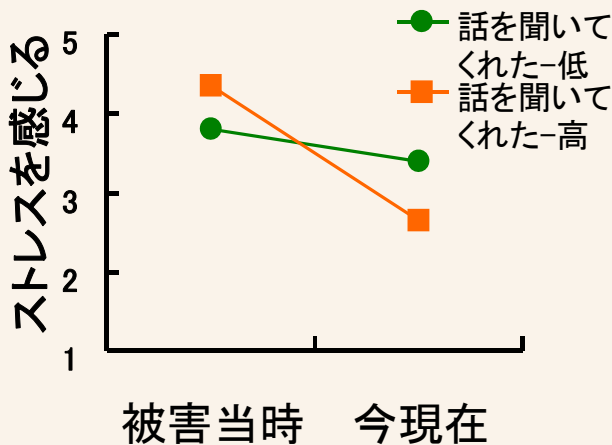
被害当時 今現在

周りの対応と恐怖・不安感との交互作用
($F(1,45)=16.938, p=.000$)

周りの人が
同情して慰めてくれた
⇒不安感が低減される

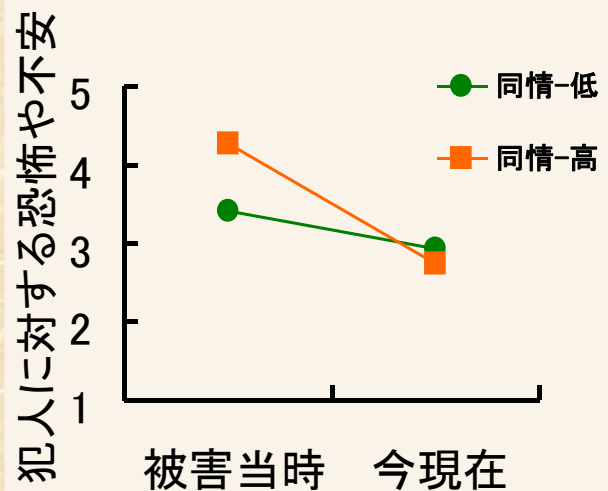
周りの人が
精神的なサポートをした
⇒恐怖心・不安感が低減

痴漢



被害当時 今現在

周りの対応とストレスとの交互作用
($F(1,25)=5.601, p=.026$)



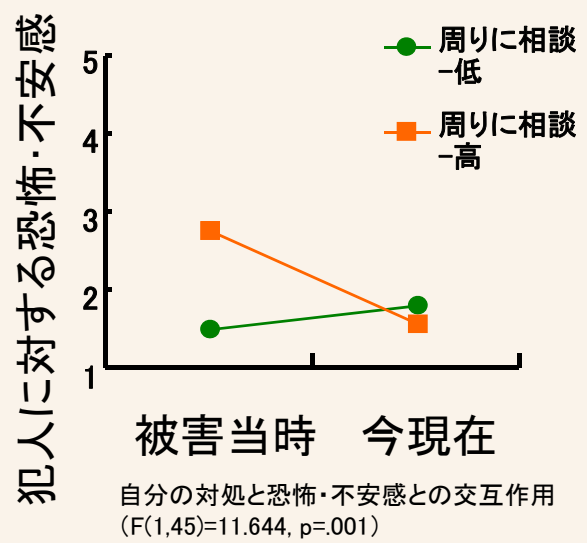
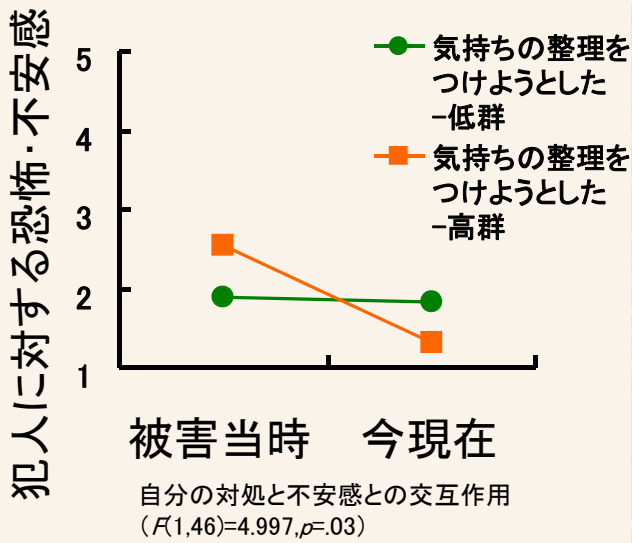
被害当時 今現在

周りの対応と恐怖・不安との交互作用
($F(1,25)=4.595, p=.042$)

周りの人が
自分の話を聞いてくれた
⇒ストレスが低減

周りの人が
同情して慰めてくれた
⇒恐怖・不安が低減

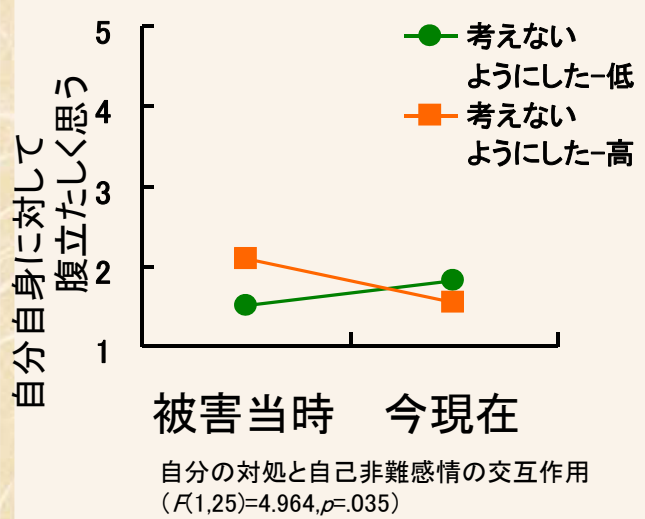
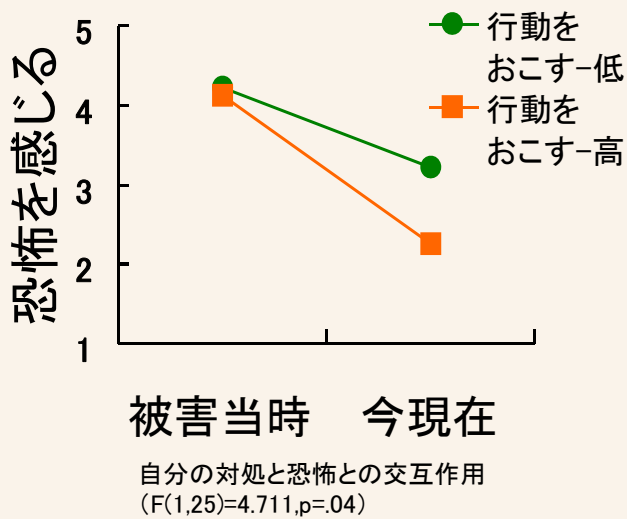
泥棒・盗難



気持ちの整理を
つけようとした人
⇒恐怖不安感が低減

周りに相談した人
⇒恐怖心・不安感が低減

痴漢



被害にあったことに対して
行動をおこそうとした
⇒恐怖心が低減される

その被害のことを
考えないようにする
⇒自分に対する
腹立たしさが低減

総合考察

17

犯罪被害内容と警察への被害届の傾向

- **最もショックだった犯罪被害の内容**
 - 男性: 金銭的被害 女性: 身体的被害
- **警察へ被害を届出するかどうか**
 - **警察がきちんと話を聞いてくれるかどうか**が重要かも

犯罪被害者に対する周りの人の対応

泥棒・盗難 & 痴漢

- ・被害者に同情する
- ・被害者の話を聞く
- ・精神的なサポート



恐怖, 不安感,
ストレス等が低減

つまり, 被害者の立場に立って行動することが有効

犯罪被害者自身の対処

18

泥棒・盗難

- ・周りの人に相談
- ・気持ちの整理をつける
(積極的対処 & 情動焦点型)



恐怖, 不安感,
ストレス等が低減

- ・犯人を捕まえようとする
(積極的対処 & 問題焦点型)



自己非難感情が低減



自分の被害についてきちんと向き合って, 考え,
周りの人とともに解決をはかる積極的対処が有効

痴漢

- ・行動を起こそうとする
- ・何からの対処をする
(積極的対処&問題焦点型)



恐怖, 不安感,
ストレス等が低減

- ・被害のことを考えない
- ・忘れようとする
(消極的対処&情動焦点型)



自己非難感情が低減



「何からの対処をする」という積極的対処が有効
・しかし「周りの手助け」は有効でなかった
・逆に「考えない」「忘れる」という消極的対処が有効



痴漢被害は, 被害者が恥ずかしさを感じるため,
上記のような消極的対処が有効なのかも

今後の課題

20

- サンプル数を増やし, 追跡調査により
本研究の結果を一般化させる
- 痴漢の場合, 「忘れようとする」, 「考えない」という
消極的な対処が, 被害感情の低減に効果あり
 - これは, 恐怖心・不安感・ストレスの低減に効果のある対処
(何からの対処, 行動をしようと思うという
積極的対処&問題焦点型対処)と矛盾する可能性がある。
 - ・ 「恥」が媒介している可能性あり(Ueichi & Oishi, 2008)
 - ゆえに, 自己非難低減のための対処についてさらに検討し,
両方の被害感情に効果のある具体的な対処を
明らかにする必要がある

- 法務省法務総合研究所(編著) (2006).
犯罪白書(平成18年版)－刑事政策の新たな潮流－ 国立印刷局
- 加藤司 (2001). コーピングの柔軟性と抑うつ傾向との関係
心理学研究, 72, 57-6.
- 小西聖子 (1996). 犯罪被害者の心の傷 白水社
- 中島聡美 (1999). 打ちのめされた心を抱えて
(諸澤英道(編者) ト라우マから回復するために) 講談社, 43-71.
- 大和田攝子 (2003).
犯罪被害者遺族の心理と支援に関する研究 風間書房.
- リチャード S. ラザルス, スーザン・フォルクマン (1991).
(本明寛, 春木豊, 織田正美監訳)
ストレスの心理学: 認知的評価と対処の研究, 実務教育出版
- Ueichi, H., & Oishi, M. (2008).
The effects of coping methods on guilt over a period of time,
*International Journal of Psychology Abstracts of the 29th International
Congress of Psychology (ICP2008)(Berlin)*, 43(3/4), 340
- 上市秀雄・楠見孝 2004 後悔の時間的変化と対処方法:
意思決定スタイルと行動選択とのとの関連性 心理学研究, 74(6), 487-495.